

平成29年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要

開催日時	平成29年9月4日（月）午前10時から12時15分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第23会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」平成29年度（平成28年度実績）評価コメントの取りまとめ（案）について ・今後の予定について
参加者	出席者 6人 ・ 事務局 4人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	環境部 環境政策課

意見等の内容の取り纏め

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」平成29年度（平成28年度実績）評価コメントの取りまとめ（案）について、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」掲載の各施策に関する平成28年度実績及び担当課の自己評価に対して、各参加者からいただいたコメントの取りまとめ（案）を報告した。

今回は、より多くの意見を取りまとめ（案）に反映したいと考え、取りまとめ（案）については、参考としたい文言を箇条書きにて抜粋している。

各参加者から提出された意見の内容と、その集約案を提示した。各指標及び今年度より新たに追加した総括コメント集約案について議論し、各課の自己評価に対する評価コメントとして意見を取りまとめた。

○質疑・意見の要旨

地球温暖化対策分野（シートNO.1～4）について

- ・NO.1について、排出割合の多い民生部門に行政として働きかけをどのようにするのか。
- ・それぞれの分野で指標がいくつかあるが、指標ごとにウエイトが違う。NO.1は、市域全体の温室効果ガスの削減でウエイトが大きい。PDCA サイクルを回すには昨年をふまえ、今年をどうしていくかが重要であるが、昨年までの数値をきちんと把握しているのかが大切である。また、それを基に施策の優先順位等について議論していく必要がある。
- ・民生業務部門では、温室効果ガス削減という意識は低い。事業者からすれば商業ベースで得だから省エネ対策等に取り組んでいる。ガス設備等も使用量の削減がコストダウンにつながる点で導入している。温室効果ガス削減によるものではなく、コスト面での取り組みである。これ以上となると経済的な優位性よりも義務制を高めていく必要がある。まだ手付かずのところもあり、危機感に差がある。
- ・奈良市は県内唯一の中核市である。県の計画もふまえ、事業主や温室効果ガスの削減量が少ない部門

が主になる施策が必要である。

- ・行政の規制はわかりやすく良い。集約案には、具体的な施策が明記していない。もっと具体的なものがあると良いと思う。
- ・国全体の方向性として経済を重視するか、環境の方にシフトしていくのかで状況は変わってくる。
- ・奈良は日中不在となっている割合が高い。また、温室効果ガス排出割合は民生部門が高い。民生部門向けの相談窓口を市で作し、電話をかけて気軽に聞ける仕組みがあると良い。
- ・環境がメインになると人が集まらない。防災など人が集まる他の分野から環境へつなげていくと良い。
- ・NO.3について、LEDを導入したことでCO₂がどれだけ削減できたのかわかるものは何かあるか。
→年次報告書である冊子「奈良市の環境」において推計値を公表している。
- ・NO.4について、公共施設の太陽光発電に関して、富雄第三小中学校では一年間発電していなかった。と聞いた。落雷のあとも手動で操作する必要があり、復旧していない場合もある。どこかで一括して点検する部署が必要なのではないか。
- ・劣化により発電率が落ちているものはなかなか分からない。
- ・地域に売電収入等が還元されていない為、意識が低いのではないか。
- ・大規模店舗の建設時に導入できる仕組みがあると良い。
→「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）」により、大きい建物は規制されているものもあるが、小さい建物は従来のみである。

⇒地球温暖化対策分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

自然環境分野（シートNO.6～9）について

- ・NO.6について、市域の林業に関して多角的な木材利用の推進とあるものの、1年に1度、市森林組合の方とも交流する機会もあるが、林業従事者でも手詰まり感があるのではないか。
- ・CO₂削減よりも他の分野での必要性が高い。
- ・NO.7について、全体的に評価が高いが、個々に見た時に現状で良いのか。
- ・昨年度まで実施していた彩マーケットについて、今年度は実施しないのか。
- ・県では大和野菜などブランド化しているが、市でも活用すると良い。
- ・大阪ではマルシェのような形式で作ったものをならべている地域もある。小さいもの多く、持ち帰りやすい。また、若者も多く来ている。
- ・NO.8について、イベントをしても人が来ないのはどこも同じである。イベントに来てもらおうとするともっと広告していかないといけない。イベントに来た人の評価は高い。学校単位や企業単位で大きく開催し、その後口コミで広げていく仕組みが必要である。まずはイベントに来てもらうためにどうするのが重要。強制的にでもまず来てもらって良ければまた来てもらえる。そのためには企業や学校等の単位くらいで開催する手法が良いのではないか。

⇒自然環境分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

○歴史環境分野（シート NO. 10～12）について

- ・NO. 10 について、他市では市の施設において古い木造の民家建物を残し建てなおしている自治体もあり、街並みを残す取組が見える。奈良市でもならまちは全国的に誇って良いものだと思う。人の動きがあって、生活をしながらこれだけ維持できていることは素晴らしい。
- ・全国的に見ても奈良は海外から来る方々からの人気が高い。そこに向けた情報発信もすると良い。
- ・他の地方では町おこしをしてもうまくいかないところもあるが、奈良はうまく順回転できている。
- ・若い世代が戻ってきているように感じる。奈良の歴史環境も春日山原始林の遊歩道周辺をベースにアピールしていけると良い。
- ・NO. 12 について、後継者の方の修了後の活動支援をどの様にしていくのかも重要である。

⇒歴史環境分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

生活環境分野（シート NO. 13～17）について

- ・NO. 13 について、国・県・近隣自治体と連携した広域的・長期的対策が必要であると分析しているが、実際に広域的に連携した取組はあるのか。
- 全国的な連携として全国の自治体関係者が集まる大気汚染防止連絡協議会が開かれている。各自治体常時監視に関する情報交換や事例報告等を主に行っている。

⇒生活環境分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

○資源循環分野（シート NO. 18～23）について

- ・NO. 18 に関連して、ごみ有料化の進捗はどうか。
→有料化すべきの方針だが、まず減量を徹底的に進めたのち、クリーンセンターの処理量を超える分について有料化を進めていきたいと考えている。行財政改革の一環として、歳入の確保を目指しているが、ごみ減量の一環として有料化を進めていく。
- ・他市の事例でも有料化すればごみが一定量減る傾向にある。県内でも有料化している自治体が増えている。
- ・ごみを減らすための手段を市民の方々にもっと周知していくべき。斑鳩町では、生ごみも回収し、大阪ガスと協働し温熱利用に取組もうとしていると聞く。青山地域など店舗が撤退した地域ではトレーの回収 BOX もないため、トレーは車かバスに乗って遠方に出しに行かねばならない。市民の生活が痛まない有料化を進めてほしい。

⇒資源循環分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

都市環境分野（シート NO. 24～30）について

- ・ NO. 26 について、以前に住んでいたところでは学生が多かった。自治会としては、会員ではないため対応しないとのことだった。しかし、防災は全住民に対する対応が求められる。若い方も自治会に入って活動してもらえると良い。
- ・ 自治会に加入していない方はどこに避難すれば良いか。ホテル等も避難者が来るのではないか。
- ・ ホテル・旅館組合では災害時の受入れとして市と協定を締結している。
- ・ 学校や公民館も避難場所となっている。
- ・ NO. 28 について、グリーンサポート制度について、アダプトプログラムとともにポイント制度と連携して行ってほしい。
- ・ 自治体としては、まず地域に出てきてもらいたいという意向がある。
- ・ NO. 30 について、利用者は増えているが施策の広がりがなく変わっていない。交通の面で温室効果ガスの要因は車と電気である。大きな改革が必要ではないか。
- ・ 県でも自転車道路の整備が進んでいる。指標も含めて見直していけると良い。質的な評価ができるような指標があると良い。
- ・ 観光だけでなく日常の中でも進んでいくような取組になると良い。
- ・ 民間のパーキングでもカーシェアリングが進んでいる。

⇒都市環境分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

環境教育分野（シート NO. 31～33）について

- ・ NO. 33 について、割合はアンケート調査で算出しているが、対象者は無作為に選んでいるのか。
→人口の偏りもあるため、小学校区で人口に応じて対象者を按分し、その中で無作為に抽出している。
- ・ 22 年度より下がっているが、何か要因があるのか。
→相関関係は分析できていないが、自由記述の内容を読み取ると、前回調査に比べ地域の問題提起から日常生活の問題提起にシフトしている傾向が見られた。近年の市民の方々の目線とアンケート結果には関わりがあるのではないかと考えている。
- ・ 表彰などで環境保全に関する活動をしている方がやりがいを感じるような取組をしてはどうか。
- ・ 環境保全活動をしたいという思いがあってもなかなか実践に結びつかない。ポイント制度との連携を考えると良いのではないか。
- ・ 若い方が参加しやすいようにインセンティブを付与し、感心を高められると良い。

⇒環境教育分野について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

全分野の総括について、

- ・ 市役所の向かいにホテルができる。県の事業かもしれないが、スマートグリッドのようなものを市と

ホテルでできると良い。

- ・奈良市として率先的に再生可能エネルギーや高効率エネルギー機器の市有施設への導入検討を行い、地球温暖化対策に取り組んでいただきたいとの意見があるが、ぜひお願いしたい。
- ・計画が具現化され、それが見えるような仕組みがあると良い。

⇒全分野の総括について、集約案を推進会議の意見として取りまとめた。

次に、今後の予定について、事務局より説明がなされた。

上半期の開催は本日で最後となり、本日までに皆さまからいただいたご意見を参考に、評価コメントの取りまとめ結果について、環境審議会で審議いただく。

今回の会議については、今年度の評価コメントシートの取りまとめ方法をふまえ、次年度の取りまとめ方法について検討したいと考えている。1月中～下旬頃を予定している。